

サーフィンによる地域活性化（福岡県西部）

1. 福岡県西部の地理特性

福岡県の糸島半島は、日本海に面しており、日本海側からのうねりによる波が届くサーフィンに適した地域である。糸島のサーフポイントは野北、芥屋、大口、二見ヶ浦や大原といった数多くのサーフポイントが散在しており、福岡市中心部からのアクセスも車で45分程度であり、サーフィンが盛んに行われている。

糸島半島は福岡県北西部、玄界灘に突出した半島であり、福岡市西区今宿と前原市加布里を境界にして、突出している。糸島半島の東部が福岡市西区、西部が糸島郡志摩町、南部が前原市の市町域となる。沿岸一帯は玄海国立公園に指定されており、白砂青松の松原、生の松原（いきのまつばら）や幣の松原（にぎのまつばら）が広がっている。他にも三大玄武洞とも謳われる芥屋大門（けやのおおと）や、日本の渚百選・日本の夕日百選に選ばれた二見ヶ浦など景勝地が多く県内でも有数の観光スポットとなっている。

2. サーフィン市場について

現在、全国では約 200 万人とも言われるサーフィン愛好家がいる。（年中を通してサーフィンをやっている人は約 30 万人と考えられています。）日本サーフィン連盟の加盟店だけでも 730 店舗あり、そのうち福岡県内には約 40 店舗があり、日本サーフィン連盟加盟店は 21 店舗であります。

福岡のサーフィン人口についてサーフショップ数から類推しますと、5.8 万人（通年で 0.9 万人）となり、全国の都道府県のなかでも、サーフィンが盛んな地域であるといえます。

サーフィン人口の増加に伴う経済効果としては主に下記が考えられます。

- ①サーフショップの収益増
- ②有料駐車場の利用者増
- ③サーフポイント付近の飲食店、小売店の利用者増
- ④携帯情報サイトの利用者増（月額 300 円）

（参考；携帯電話波情報利用者数は全国で 1 5 万人）

3. サーフィン人口の増加促進策

サーフィン人口の増加促進策として、以下を提案します。

（1）ハード施策

- ①環境整備
 - ・サーフポイント付近のシャワーや更衣室・トイレ等の充実
（女性がサーフィンをしやすい環境の整備）
 - ・駐車場整備
- ②新規ポイントの開拓（サーフポイントでの混雑解消）

- ・サーフポイントまでの林道の整備
- ・ 砂礫供給不足への対策
 (例えば砂防ダムの工法を、土砂を全部貯めるのではなく、災害防止のための巨石や流木を止め、粒径の小さな砂利は下流へ流すスリット型ダムの採用など、山、川、海岸までの自然の土砂の流れを極力妨げない総合土砂管理の取組み)
- ・ 既往の侵食対策の見直し：消波提、突堤等の撤去（サーフィン可能な波を再生）

(2) ソフト施策

- ・サーフィン関連の広告・宣伝（看板、ポスター、掲載県内情報誌等）
- ・海岸付近での交通マナーの周知徹底（地元の住民の交通の支障とならないようにする）
- ・サーフィンを行う際のマナー周知徹底（波を譲り合う心）
- ・観光事業との連携（海岸沿いの店舗の誘致、宿泊施設の整備）
- ・キレイな海の実現（下水道の充実、ビーチクリーンの実施）

4. まとめ

以上、サーフィン人口の増加による糸島地域の経済活性化について、考えられる施策を述べましたが、全国では、和歌山県サーフィン連盟による人工サーフィンリーフの建設や、サーフライダー・ファウンデーション・ジャパン湘南支部によるサーフポイントの水質監視等様々な取り組みも行われております。行政、民間、市民が一体となって施策を実施することによって、サーフィンのための環境を整備することにより、地域の経済活性化につながるのではと考えます。

サーフポイントの砂浜の保全是港湾整備や河川の浸水対策等と関連する難しい問題ですが、今後の公共事業における 1 視点として考慮して欲しいものです。また、地球温暖化による海面上昇もサーフポイントの消失につながります。省エネ等、地球温暖化防止に必要な施策への取り組みも重要です。

最後になりましたが、糸島半島の夕陽に包まれたオレンジ色の海面をサーフボードで走るときの気持ちは他の何にも替えられないものです。白い砂ときれいな水を有するすばらしいサーフィンスポットである糸島地域の環境を守ると共に、サーフィンを通じての経済活性化を実現できれば、素晴らしいことだと思います。

